

I 事業の概要（地域の実情含む）

西和賀町は、岩手県の南西部に位置し、北は雫石町、東は花巻市と北上市、西は奥羽山脈の分水嶺を境として秋田県に接している。四方を連山に囲まれ、冬季における積雪は2mにもおよぶ豪雪地帯である。

本校のある湯田地区の中心部は川尻地区と湯本地区で、和賀川と数本の支流沿いに40余りの集落がほぼ放射線状に点在している。その多くの集落は土砂災害の危険区域又はその付近である。また、人口減少と高齢化が急速に進んでいるため、児童も地域の一員として果たす役割も大きくなっている。

このような地域であることから、小中高校の異校種間が連携し、地域で予想される様々な自然災害について、発達段階に応じた基礎的・基本的事項を理解し、地域の自然環境や安全について意識の向上を図らなければならない。

そこで、災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うと共に、状況に応じて的確な判断の下に、自らの安全を確保できる児童を育成するために、地域住民や行政機関等の関係機関の協力を得ながら「小中合同による防災マップの作成」「小高合同避難訓練」「なかよし登校」に取り組むこととした。

II 取組の概要

(1) 防災マップ作成

ア ねらい

- ・自分の住んでいる地区の災害の危険箇所を実際に見たり、マップに記入したりする活動をすることで、災害の危険性を知り、被害を軽減しようとする意識を高める。
- ・自分の住んでいる地区の避難場所を親子で確認し、災害時に自主的に避難できるようにする。

イ 活動内容

(ア) 小中合同地区長会議

湯田小学校において、小・中学校のPTA地区会長に、防災マップの作成の趣旨を話し、作成を依頼した。また、町の防災担当者からデジタルマップや町内の危険箇所の説明を受けた。地域の方には、各PTA地区会長が協力を依頼した。

(イ) 防災マップの作成

夏休みに、湯田小学校の地区子供会を単位に、小学生、中学生、保護者、地域の方々が参加し、危険区域に指定されている箇所を現地で確認しながら、過去の災害時の様子を聞いた。その後、デジタルマップに自宅や避難所、過去の災害箇所、感想等を記入した。また、親子で避難経路の確認をし、避難カードも作成した。



[保護者や地域の方と防災マップを作成]

(ウ) 展示

学習発表会において作成した防災マップを玄関ホールに展示し、児童、保護者、来校した方々に見ていただいた。その後、地域の方にも見ていただけるよう公民館に展示した。

ウ 活動の様子

「ぼくの家は、避難するより、家で様子を見ての方がよいということが分かった。」「実際に見に行くと、崩れるかもしれない場所というのが信じられなかった。」など、デジタルマップで確認したり、実際に見たりし、実感することができた。

参加した地域の方からは、「このような機会は初めてで、大変よい取組だと思った。子どもに昔のことを話して聞かせるのは、年寄りにとっては楽しいものです。」との感想をいただいた。

また、親子でひなんサポートカードを作成しながら、登下校中に災害が起きた場合の避難場所を確認した。そして、作成したカードはランドセルに入れておくこととした。



ひなんサポートカード  西和賀町立湯田小学校

ひなん ぼしよ
避難する場所 

な まえ けつえきがた
名前 (血液型)

せいねんがっぴ へいぜい ねん がっ ちろ
生年月日 平成 年 月 日

じゅうしょ
☆おうちの住所
西和賀町

☆ おうちの電話番号
() - () - ()

☆ おうちの人の携帯番号
・おうちの人の名前 () - () - ()
・おうちの人の名前 () - () - ()
・おうちの人の名前 () - () - ()

ひょうき [病気・アレルギー等] *かかりつけの病院は []
[電話番号]

メモ 

ゆだしょうがっこう
湯田小学校 0197-84-2816

ランドセルに入れておきましょう。
[避難カード]

(2) 合同避難訓練

ア ねらい

- ・大地震において、自分の身を守るためにはどうすればよいか考え、安全に避難できるようにする。
- ・体育館が避難所になった場合の引渡しまでの過ごし方について、西和賀高校と連携を図り、災害時の自助・共助の基本行動について確認を行い、将来、地域の担い手となる中高校生に避難所の運営の在り方を理解させ、防災に対する意識を高める。

イ 活動内容

- ・湯田小児童及び教職員は、地震による二次災害の危険性のため、体育館へ避難し、情報の一元化を図った。
- ・緊急速報が流れ、安全を確保したあと、保護者への引き渡しのため、体育館で待機した。西和賀高校も避難してきたため、避難所の過ごし方の学習も行った。
- ・なかよし登校に向けて、顔合わせを行った。(該当地区)

ウ 活動の様子

児童の感想は「すぐに地区ごとに並ばせてく

れて、迷わなくて良かった。」「高校生は素早く行動してびっくりした。」「初めてやったけれど、すぐに仲良くなれてよかった。」「高校生が格好良かった。ああいう高校生になりたい。」などがあった。高校生がよい手本になっていた。また、普段の避難訓練より、実感をもって取り組めた。

今回の小高合同訓練は、両校にとって新鮮であり、次々襲ってくる自然災害の中でとてもタイムリーな活動となった。



[避難所で小学生をリードする高校生]

(3) なかよし登校

ア ねらい

- ・登下校における災害時に、安全に行動できるように、防災意識の向上を図る。

イ 活動内容

- ・湯田地区の児童が西高生と一緒に、学校まで登校した。安全を考慮し、高校生が先頭と最後尾につき、一列で登校した。
- ・集合場所は、湯田小児童の集合場所とし、校門内まで一緒に登校し、あいさつで解散した。

ウ 活動の様子

学校に着いた高校生が、スクールバスの児童をハイタッチで迎える自主的な面も見られた。スクールバスの児童も、笑顔になっていた。高校生のリーダーシップで楽しく、安全に登校できた。

教職員の指示がなくても、スムーズに活動できた。

地域の方にも、微笑ましく、とてもよい取組と声をかけられた。今後も続けたいと教職員や児童から声が聞かれた。





〔高校生となかよく登校する小学生〕

Ⅲ 取組の成果と課題

(1) 成果

ア 自らの命を守ることを第一に考えながら、自助・共助の気持ちを持って活動することの意義を深めることができた。

イ 実際に見聞したことで、小学生なりに、防災の意識を高めることができた。

ウ 防災マップの作成を行ったことによって、直接危険区域を知るだけでなく、マップを作成する際に自宅から危険区域を通らず避難所への経路を確認することができた。

エ 学習発表会や公民館で展示したことにより地域の方々にも防災に関する意識を高めることができた。

オ 教職員も児童や地域の実態を把握し、防災教育に対する意識が高まった。

カ 防災意識の高まりは、児童の意識調査から次の3点があげられる。

(ア)「ハザードマップを見たことはあるか」という問いに対して見たことがあると回答した児童は、活動前は10名だったのが活動後は、18名に増えた。

(イ)「避難場所を知っている」という問いに対して知っていると回答した児童が10名から、21名に増えた。

(ウ)「自分の住んでいる危険箇所を知っているか」という問いに対して知っており実際に見たことがある児童が14名から全員の22名に増えた。

(2) 課題

ア まだ、保護者や地域の方々には、防災に関する意識が低い方もおり、小学生にもその影響はあると思われる。

イ 今後、小・中・高等学校とどのような活動を展開していくか検討しなければならない。
ウ 行政機関と連携を図り、地域の防災活動に小学生が積極的に参加できるようにする。

【資料 活動の様子の写真】



〔危険箇所を確認している様子〕



〔地域の方から危険箇所の説明を受けている様子〕



〔地域の方から過去の災害の話をしている様子〕



〔ひなんサポートカード〕

【資料 復興教育にかかわる防災についての西和賀町の児童・生徒の意識調査】

(7月、12月に実施)

防災について、現在、あなたが感じていることや実行していることを回答してください。
(記号に○をつけるか、又は、考えを記入してください。)

年 組 番 _____

問1 あなた(家族)が、今、自然災害に合うとしたら、どのような自然災害が考えられますか。あてはまるものを全て選びなさい。

- ア 地震 イ 火山活動 ウ 津波 エ 洪水 オ 土砂崩れ カ 落雷 キ 竜巻
ク その他()

問2 このような、自然災害が起こるとどのような事態が起こると考えられますか。あなたの考えを書いてください。

問3 あなたが、今心配している自然災害があれば書いてください。あてはまるものを全て選びなさい。

- ア 地震 イ 火山活動 ウ 津波 エ 洪水 オ 土砂崩れ カ 落雷 キ 竜巻
ク その他()

問4 自然災害について何か注意(意識)していることはありますか。

問5 自然災害や防災についての新聞やニュースを興味・関心を持って見ていますか。

- ア 関心がある イ 少し関心がある ウ あまり関心がない エ 全く関心がない

問6 日頃から災害時の行動を考えていますか。

- ア 考えている イ 時々考えている ウ あまり考えていない エ 全く考えていない

問7 防災についての意識は高いと思いますか。

- ア 高い イ 少し高い ウ あまり高くない エ 高くない

問8 家族の人と自然災害や防災について話し合うことはありますか。

- ア よく話し合う イ 時々話し合う ウ あまり話し合うことはない エ 全く話し合うことはない

問9 家族のひと災害時の避難方法や連絡と取り方について話し合っていますか。

ア 話し合っている イ 話し合っているが覚えていない ウ 話しあっていない

問10 地域で行われている防災活動に参加したことはありますか。

ア 参加したことがある イ 参加したことはない ウ 参加したいが機会がなかった

問11 自分の住んでいるところのハザードマップを見たことはありますか。

ア 見たことがある イ ハザードマップがあることは知っているが見たことはない

ウ ハザードマップがあることを知らないのを見たことはない

問12 自分の住んでいるところの危険箇所を知っていますか。

ア 知っており実際に見たことがある イ 知っているが見に行ったことはない

ウ 知らない エ 危険箇所はない

問13 自分の住んでいるところの避難場所を知っていますか。

ア 知っている 避難場所は() イ 知らない

問14 避難所ではどのような立場で行動しますか。

ア 積極的にボランティア活動を行いたい イ 指示が出たなら手伝いたい

ウ みんなから助けてもらいたい エ 特に何もしない オ 分からない

問15 避難所では、どんな問題が起こると思いますか。

| |
|--|
| |
|--|

問16 家庭で緊急避難用具は準備されていますか。

ア している イ していると思う ウ していないと思う エ していない

問17 問16でア・イを回答した人は、どのようなものを準備している、または準備していると思いますか。

| |
|--|
| |
|--|

問18 家庭で緊急避難用具として、最低限必要なものはどのような物と考えられますか。

| |
|--|
| |
|--|